

4 学習指導

児童生徒の調和のとれた人格の育成を目指し、生きる力を育むためには、「確かな学力」を育成することが重要である。児童生徒に学ぶ楽しさや分かる喜びを感じさせながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことが必要である。学校長のリーダーシップの下、全教職員で方針や取り組むべき内容等について共通理解を図り、学校全体で取り組んでいただきたい。

(1) 全校体制での取組を

児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、全教職員の共通理解の下、全校体制で学習指導の充実に取り組んでいただきたい。



《主な確認事項》

- ☐ 学校経営の重点項目に授業改善に関する内容を位置づけるなどし、全校体制で資質・能力の育成を目指した取組に努めているか。
- ☐ 学力調査の結果を分析するなどして課題を明らかにし、目標を重点化、焦点化しているか。また、学力向上改善プラン等の作成・実践を通して評価・改善が図られているか。
- ☐ 教員同士が学び合うような校内研修や授業研究会を意図的、計画的に実施し、成果や課題を踏まえて、具体的な改善策を検討し、日々の授業実践に生かせるよう努めているか。
- ☐ 学習基盤の確立に向け、学びに向かう集団づくりに努めているか。
- ☐ 家庭との連携に努め、家庭学習の充実に通じて、学習習慣化や学習意欲の向上を図っているか。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を

児童生徒に求められる資質・能力を育むために、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っていただきたい。

《主な確認事項》

- ☐ 児童生徒が学ぶことの楽しさや達成感を味わうなど、主体的に学ぶことのよさを実感したり、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら自らの考えを広めたり深めたりできるよう、習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習等の充実に図っているか。
- ☐ 学習指導要領の趣旨や各教科等の目標と児童生徒の実態を踏まえ、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、授業づくりを行っているか。
- ☐ 本時で身に付けさせたい力を明確にし、目標を達成した児童生徒の姿をイメージしてねらいを設定しているか。
- ☐ 本時のねらいに沿って、言語活動を取り入れた学び合いや、目的を明確にした学習形態による活動を、必要に応じて適切に位置付けているか。
- ☐ 学習過程の中で、児童生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう、自発的に「めあて」を設定できるよう工夫するとともに、児童生徒が自分の学びを自覚し、教師が児童生徒の学びを指導と評価に活用できるような「振り返る活動」を設定しているか。
- ☐ 「自分の考えを書く活動」を意図的に位置付けたり、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付けたりするなどして、自分の考えをまとめ、整理する活動を意図的に設定しているか。
- ☐ 学習活動の充実に図るため、ICTの特性を理解し、必要に応じて、活用の目的を明確にした効果的なICTの活用に努めているか。

(3) 学習評価の工夫・改善を

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して「指導と評価の計画」を作成し、指導と評価の一体化を図るなど、学習評価が児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながるよう、努めていただきたい。

《主な確認事項》

- ☐ 信頼性・妥当性の高い学習評価になるよう、評価規準や評価方法について検討するなど、評価の在り方について教職員の共通理解が図られているか。
- ☐ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して「指導と評価の計画」を作成し、指導と評価の一体化を図るなど、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながる学習評価となるよう努めているか。
- ☐ 目標に準拠した評価による「観点別学習状況の評価」については、指導や支援に生かすことに重点をおき、記録に残す評価の場面を精選し、単元や題材など、内容や時間のまとまりごとに、実現状況を把握できる段階で記録を蓄積し、適切に評価しているか。



授業の目的は、ねらいとする資質・能力の育成です。これは1単位時間の授業だけでは身に付くものではないので、単元など内容や時間のまとまりの中で育成していかなければなりません。だから、単元のゴールまでの見通しをもって、授業づくりをすることが大切なのです!!

手順

- ☐ その1 指導事項の確認
- ☐ その2 児童生徒の実態・既習事項の確認
- ☐ その3 単元目標の設定
- ☐ その4 単元の評価規準の設定
- ☐ その5 単元の指導と評価の計画作成
- ☐ その6 本時の評価規準の具体化
- ☐ その7

本時の授業構想

授業の流れ(例)

学びの主役は子供たち。
主語はいつでも子供たち。
子供たちが学びを自ら創り出す授業づくりを。



これはあくまで一例。
子供たちの実態、授業のねらい、内容などに合わせてベストな授業づくりにチャレンジしましょう!!



児童生徒の活動

教師の働きかけ

こんな言葉で

めあての設定

え? 本当に? そうかな?
考えたい! 取り組みたい!

おもしろそう! なぜ?
どうやったらいいかな?



- ☐ ねらいに迫る知的好奇心をゆさぶる導入の工夫をする 例えは…
 - Q 身近なもの・実生活からつなげる
 - Q 具体物やICTを活用する
 - Q 前時までの学びの足跡を振り返る
- ☐ 「目的意識」をもたせる
- ☐ 児童生徒自らめあてを設定できるように仕組む

・どうする?
・どうしたい?
・どうなればいい?



学習の見通し
解決の見通しをもつ

自分の考えをもつ

だって…
なんでかっていうと…



自分の考えを伝える
友だちの考えを聞く
よりよい考えを見つけたら
新たな課題に気付く



私が思ったのは…
〇〇さんはどう思ってる?
そういう考えもあるのかあ
だとすると△△はどうなる?

- ☐ 学習をどう進めるかのイメージをもたせる
- ☐ 学習のゴールのイメージをもたせる
 - Q 「何を」「どのように」考えるかを促す
- ☐ 自分の考えをもつ場の設定をする
 - Q 時間を確保する
 - Q 視点を示す
 - Q 考えを持ってない場合の手立ての準備をする
 - Q 多様な表現(絵、図、言葉等)を可能にする
 - Q 個々の考えを把握する
- ☐ 思考を広げ、深める活動を
 - Q 意図的指名をする
 - Q 価値付ける
 - Q 視点を明確に
 - Q 問い返し・ゆさぶりをする
 - Q 目的に応じた形態にする(ペア・グループ・一斉等)
 - Q 発言をつなぐ
 - Q 思考変容の自覚に気付かせる

・どうしてそう考えた?
・どうやって考えた?
・どういうこと?
・本当にそうかな?
・なんで? どうして?

【考える】ヒント
順序付ける 比較する
分類する 具体化する
抽象化する 関連付ける
理由付ける 構造化する

まとめる

・「わかった」「できた」「解決できた」
の実感をもつ

振り返る

- ・「わかった」「できた」
「解決できた」ことを確認する
- ・変容に気付く
- ・どう生かせるか考える



わかったぞ!
なるほど…
そうだったんだ
今度は…

- ☐ 児童生徒の言葉で(教師が)まとめる
- ☐ めあてとの関係を考えさせる

・どうしたらできた?
・どうしてできなかった?
・▲▲から何が学べた?
・何にどう生かす?

- ☐ 「できた」「わかった」を価値付ける
- ☐ 変容を把握する
- ☐ 具体の姿を評価する
- ☐ 活用、発揮できる可能性を価値付ける



☐ その8 単元の振り返り